

令和4年度「『大仙っ子読書の日』運動」各校の取組

今年度も、市内小・中学校において「『大仙っ子読書の日』運動」に御協力いただき、ありがとうございました。各校からいただいた資料を基に、特色ある活動等を紹介いたします。今後の読書活動に活用して下さるようお願いいたします。

令和5年1月30日
大仙市教育委員会事務局
教育指導課

1 読み聞かせ、読書集会等の開催

図書委員会の子どもたちや教職員、図書ボランティアの方々による「読み聞かせ」、「読書集会」等が多くの学校で行われました。



民話の会による昔語り
大曲小



読書標語紹介
花館小



図書ボランティアによる読み聞かせ
内小友小



読書まつり集会
大川西根小



読書しおりコンテスト表彰
藤木小



ビブリオバトル in NANGAI
南外中



先生方のお気に入りの1冊紹介
西仙北小



リモート読書集会
神岡小



ビブリオバトル開催
西仙北中



出身小学校でのビブリオバトル
大曲中



先生方による読み聞かせ
南外小



読書集会での読書クイズ
太田南小



チャレンジ 詩のボクシング
太田東小



全校読み聞かせの会
大曲南中



ビブリオバトルに挑戦
太田北小



図書ボランティアによる読み聞かせ
角間川小



読書の日記念 ミニビブリオバトル
大曲西中



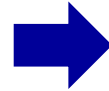
図書委員による読み聞かせ
四ツ屋小

	ブックリストの利用	ボランティア等の利用	家庭と連携した読書活動
令和3年度	76.6%	60.0%	
令和4年度	86.6%	83.3%	60%



発達段階に応じた取組による読書習慣の形成
児童生徒が生涯にわたる読書習慣を身に付け、読書の幅を広げられるよう、今後も各校の読書活動の充実に向けた取組をよろしく願いいたします。

2 図書コーナーの設置や図書館だより等の配布



子どもたちや教職員、図書ボランティアの方々による図書環境の整備や図書館だよりの配布等、工夫された取組がありました。



私のおすすめの本
東大曲小



おうちでも 読書カード
中仙小



ブックリストコーナー
清水小



先生方のおすすめの本コーナー
豊成小



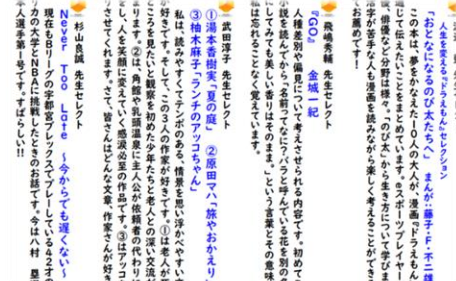
季節に合わせた読書コーナー
協和小



お楽しみブック袋
横堀小



文化委員によるおすすめの本
協和中



先生方のおすすめの本紹介
仙北中



おすすめの本コーナー
中仙中



平中 おすすめの本
平和中



読書レストラン
高梨小



SDGs に関する本のコーナー
太田中

印刷資料とデジタル資料の利用時の意識と脳活動の特徴

言語脳科学者の酒井邦嘉氏は、講演「紙が育む記憶力・脳の創造性」のなかで、教育のデジタル化の問題点を三つ挙げている(「活字の学びを考える懇談会」 公益財団法人文字・活字文化推進機構 2021年6月2日)。

第1は、製本された紙の教科書とデジタル化した教科書では、内容の把握の仕方が相当に変わることで、第2は、デジタル化によってインターネットの検索による弊害が進むこと、第3は、デジタル端末で完結しがちになって、紙のノートを使わなくなってしまうことである。酒井氏は第3の点について、次のように述べている。

机の上に情報の宝庫であるタブレットが置いてあればそれで十分だと思いがちになる。膨大なテキストでもコピーは一瞬だから、画面を一度見ただけで頭に入るものと錯覚する。画面に電子ペンで書き込むことも可能だが、ノートに書き写して覚えることなど無駄な作業だと感じるようになるだろう。そうすると、そもそもメモを取る能力が育たなくなってしまう。メモを取るためには、自力でその内容をかみ砕いて、自分の言葉でキーワードを抽出しながらまとめる必要がある。物事の関係性を自ら考えながらノートに書くのである。そうした地道な過程こそが、深い理解と学習を促すのだ。

また、脳機能の研究者である川島隆太氏は、講演「スマホ脳と子どもの学力」において、次のような研究結果を明らかにしている。

- 対面してお互いの顔を見ながら話をすると、きちんと脳活動が同期している。要は、相手の気持ちを思いやっている。ところが、Zoom などを使って話した時には、全く同期しなかった。何もしないで、ぼうっと座っているときの脳活動と変わってないということがわかった。
- 辞書を使って調べると、確かに調べられた単語の数は少ないが、脳がきちんと働いている。一方、スマホとウィキペディアで検索した時は、調べた数は多いが、脳に活動が起らなかった。
- これまでの我々のデータで目にしたのは、読書は脳発達を促すということである。脳発達を促される子どもは、学力が高いという結果が出てきている。一方で、スマホ・タブレットを使い込んでいる子どもには、脳発達の抑制がかかる。

デジタル資料の利用が悪いというのではない。上述のように、利用するメディアの違いによって意識や脳活動に特徴があることを理解することが必要である。小学校低学年の児童には、デジタル資料より紙の資料、あるいは現実体験のほうが必要な場合が多いであろう。児童生徒の発達段階やメディア利用経験の多寡を考慮して、資料利用の際にメディアを選択して指導することが重要である。

引用：【文部科学省委託事業 指導主事の資質・能力向上と指導主事ネットワークの構築に関する取組 「1人1台端末時代の学校図書館担当指導主事の仕事と知識」(2021年9月 P54から 抜粋)】

「親子で読みたいブックリスト2022」の利用～各校の取組から～

- ◇印刷して家庭に配布したり、図書室や校内掲示板等の子どもたちの目にとまる場所に掲示したりしました。
- ◇団体貸出やテーマ展示のヒント、読み聞かせなどの図書指導のヒント、本の紹介カードの作成、学級文庫や購入図書などのヒントとして活用しました。

読み聞かせボランティア等の利用 ～各校の取組から～

- ◇図書室の環境整備、図書の受入や選書・修繕を行っていただきました。
- ◇定期的に読み聞かせをしていただきました。
- ◇おすすめ本コーナーの設置、季節に合わせた図書室の飾り付けなどを行っていただきました。

家庭と連携した読書活動 ～各校の取組から～

- ◇毎週水曜日を「リーディングデー」として全校一斉に家庭での読書を行っています。
- ◇毎週火曜日を「家庭読書の日」とし、親子で読書することを推奨しています。
- ◇長期休業を活用し、親子で読書をしたり、読書カード等を書いたりする活動に取り組んでもらっています。

